

第2回嬉野市教育委員会議（定例5月）

平成30年5月25日（金）11:05～12:15

嬉野市中央公民館 視聴覚室

1 開会

5月の連休が終わり学校は平常授業があっている。先日、多久市議会から視察に来られ、2学期制について感心しておられた。嬉野市では以前から2学期制を取り入れており順調にしているところである。

2 会議録署名委員 ○○委員、○○委員

3 議題

(1) 報告

①6月議会日程について

(学校教育課 ・6月1日開会であるが市長の出張の都合などにより少し間が空く。一般質問が6月11日からの3日間で最終日が6月21日である。

(教育長) ・一般質問が出て揃いつつあり、教育部局関係は歴史民俗資料館の活用やトイレの問題などが出ている。

②6月補正予算について

(教育部長) ・子ども学校塾については追加補正で7580千円を要求している。知恵袋事業は前年度並みの2000千円で要求する。英検は3級以上を対象とすることとなり470千円に減っている。中体連補助は実績に応じた金額。研究指定校事業は轟小学校の学力向上のための事業であり県費20万円、市費20万円で実施する。「わたしたちの嬉野市」を改訂し2000部作成する費用として1826千円。評価委員を兵庫から来てもらう費用が1回分しかなかったので追加する。嬉野中の高架水槽への揚水ポンプが故障したため修理する。久間小の通級指導教室設置のための予算と塩田小、五町田小に特別支援教室設置のための予算を要求している。文化センターの職員異動に伴い防火管理者が不在となったため資格取得のための予算。埋蔵文化財確認調査は大黒町遺跡区域に民間業者による開発行為の申出があり調査を実施するもの。

(○○委員) ・塩田小・五町田小の特別支援教室設置とは対象の児童が増えたということか。

(学校教育課 長) ・特別支援教育については定数が8人と定められておりこれを超える人数となったため増設する必要がある。

(事務局) ・社会教育分野の6月補正。青少年交流事業は子どもクラブで実施しているもの。自治公民館新築、改築のための補助金で2315千円。文化振興事業実行委員会補助

金は当初が骨格予算であったため年度後半分の補助金の増額を補正している。人づくり振興事業は伝承芸能の道具に対する補助金。伝統芸能継承事業は昨年からの事業であり横笛の指導の仕方などを学んでもらっている。短歌大会・川柳大会は今年から子ども対象として取り組むよう計画中。市民センター備品は建設中の市民センターを4月からオープンさせるために机椅子等を購入するもの。県内一周駅伝は増額補正。国際スポーツ大会キャンプ誘致は体育協会、観光協会等を巻き込んで誘致するための予算。市体育協会補助金はみゆきパークランを実施するための補助金。夢スポーツ支援事業はこれまで2校ずつで実施していたが今年度から全小学5年生に体験してもらう計画である。サガン鳥栖交流事業はサガン鳥栖嬉野デーのための予算である。スポーツライフ推進事業は新規事業であり、人生にスポーツを取り入れてもらおうという民間企業とともに実施するもの。総合体育館の工事監理や備品購入の予算を要求している。新体育館は床が特徴的であり国際大会基準のタラフレックスという樹脂を使ったものである。

- (〇〇委員) ・メンテナンスはどうか。
- (事務局) ・木床のような研磨塗装などのメンテナンスは不要であり手間は全くかからない。
- (〇〇委員) ・夢スポーツ支援事業が今回から全5年生が対象とのことであるが、当初からそのようにはできなかったのか。
- (事務局) ・まずは試験導入で2年間実施したと捉えていただきたい。

③嬉野市総合計画について

- (教育部長) ・第2次嬉野市総合計画が6月議会に提案される。教育分野は4項目にわたって上がっている。
- (学校教育課長) ・学校教育の成果指標は家庭学習時間についてと地域行事への参加率の2つを上げている。
- (教育部長) ・生涯学習・青少年育成については図書館利用者数の増加を上げているが人口が減少する中非常に厳しい目標値であるが何らかの対策をしていきたい。
- (事務局) ・文化スポーツ振興課で設定した成果指標として公民館利用件数の増とこども文化祭出場者数の現状維持を上げている。またリバティ文化ホールの利用件数の増加やスポーツ施設の利用件数増加を上げている。
- (〇〇委員) ・今回の総合計画の特徴は縦割りではなく横のつながりを見てあることが大きな特徴と思われる。また個人の役割や地域の役割、行政の役割まで言及してある。

④文化・スポーツ振興課 事業予定表について

- (事務局) ・今年度の英会話教室の講師はネイティブの方であり好評を得ている。

⑤嬉野市内の児童生徒数の推移見込みについて

(学校教育課 長) ・久間小は来年 2 クラスに増えるが逆に嬉野小は 2 クラスに減る。小学校は今後 5 年間程度は大きな変動はない。中学校は表では来年度 231 人となっているが毎年 20 人程度県立中などへの進学があるのでおそらく 210 人程度になると思われる。31 頁を見ると平成 33 年度に児童が今より 50 人ほど少なくなるように見えるがこれは幼児数の変動がまだわからないのであくまでも推測である。中学校のクラス数であるが塩田中が平成 31 年度特学も含め 9 クラスになり大野原中が 2 クラスになる。来年度は職員が減ってしまうこととなる。年度別総計の 36 年度級数は特学クラスが加味されていない数値である。市内のクラス総数は 5 年ほどはあまり変わらないと思われる。

⑥不登校の状況について

(事務局) ・4 月の欠席状況 30 日未満の不登校傾向の児童生徒は中学校で 15 人、小学校で 7 人である。昨年度の欠席が 20 日以上あったものが出ている。昨年は 4 月は中学校 17 人、小学校 6 人であった。中学生 15 人のうち 4 月に何も出席できなかった生徒が 2 人、4 月に欠席しなかった生徒が 4 人含まれる。小学生 7 人のうち一番多く休んだ児童は 6 日間休んでいる。何も休まなかった児童は 1 人いる。嬉野市の不登校者の出現率は増加している。

⑦いじめの状況について

(事務局) ・4 月 5 月で件数として上がったのは五町田小の覚知 1 件である。被害者は 5 年生女子で集団登校中のトラブルである。

⑧職員の時間外勤務の状況について

(学校教育課 長) ・働き方改革の推進のため毎月の全職員の勤務時間の実態を集計することとなった。4 月は管理職は嬉野中が平均 100 時間、教諭講師は嬉野中が 79.9 時間で最も長い。内容を見ると休日の出勤が半分以上を占めており部活動指導が影響している。

(教育長) ・教頭の業務を主管教諭に振り分けることなどを提案している。

(2) 協議

①「嬉野市の教育」及び「ワクワクデザイン 2018」について

(教育長) ・29 年度までは「嬉野市教育施策実施計画」としていたが内容が見えにくいので「嬉野市の教育」と変えている。ご指摘の点などあればお知らせいただきたい。

・「嬉野っ子ワクワクデザイン 2018」についてこれまでも説明をしているがご意見を伺いたい。

(学校教育課 長) ・プラン3については評価委員からの指摘を受け「知・徳・体」のうち「体」を取り入れたものである。

(教育長) ・「嬉野市民ワクワクデザイン 2018」も合わせて確認をお願いする。
・それではこの内容で今年度は決定をする。

②嬉野市内小中学校全職員研修会について

(教育長) ・11月の第2日曜日の教育の日の午後に教員の研修会をしていたがここ数年は別日で実施している。部会で全職員研修会について検討をしているが教育委員からテーマなどについて提案すべきことはないか。なければ部会で決めさせていただく。

(3) その他

- ・5月27日(日) 五町田小・久間小・塩田小 運動会
- ・6月23日(月)～27日(水) ESD日米教員交流プログラム
- ・6月26日(火) 午後 市教委訪問 大野原小中
- ・6月22日(金) 10:00～次回定例教育委員会

4 閉会

会議録署名委員
